

【ムジナのおまじない】

昔、松の木の辺りには、大層いたずら好きなムジナ（タヌキ）が住んでおりましたそうな。

そのころ、あるお大尽の家では、蔵の二階にいつも五、六人の若い衆が寝泊まりしておりました。その蔵の階下の戸をトントンとたたいては若い衆の名を呼ぶ声があるので、呼ばれた若い衆が降りて行って戸を開けてみたけれど、ただ暗いだけでネコの子一匹おりませんでした。ある晩、また戸をトントンとたたいた音がしましたので、二階の窓からそつとのぞいて見ました。すると大きなムジナが戸口にいて、しっぽで戸をたたいているのが見えました。そこで呼ばれた若い衆が返事をする、ムジナはどこへともなく帰って行きましたそうな。それから、ムジナが夜に戸をたたいては若い衆の名を呼び、呼ばれた若い衆が返事すると帰って行く———ということがしばらく続きましたそうな。

また、そのころは、おふる場などはなく、おふるは軒端に据えておりましたので、若い女の人が入ったりしていると、時時いたずらムジナがのぞきにきては、「ピリピリ、ヒョロヒョロ」と鳴いて女の人をからかいました。それで、気味悪がつたお大尽の家のおかみさんは、ムジナが近付いてきたら投げつけようと、火かき棒をふるおけに立て掛けておいてふるに入りました。でもおかみさんが用心していたせいか、ムジナは余り近付いてこないで、いつも庭の隅の笹の間からしばらく見ているだけで帰って行きましたそうな。

ある寒い晩のこと、お大尽の家のおかみさんが夜中に手洗いに起きると、汲み取り口の穴から手が伸びてきて、おしりをなでられたそうな。びっくりしたおかみさんが、その手をつかまえて力いっぱい引っ張りますと、相手の手がスポツと抜けてしまいましたそうな。

明るい所に行つてよく見るとムジナの手だったので、おかみさんはなおびっくりしました。けれど夜も遅いことだし、明日の朝にでも片付けようと思つて、その手を土間の隅に置いて休みましたそうな。ところが、

その晩、ムジナがおかみさんの夢枕に出てきて、「おかみさん、さっきは脅かしてすみませんでした。お願いですから私の手を返してください。返してくださいれば、どろぼうよけのおまじないをしてあげましょう。明日の朝早く、だれにも見付からないように、戸口に私の手を出しておいてくださいよ」と言いました。

それでおかみさんが、翌朝早くムジナの手を戸の外に置いておくと、いつの間にか手がなくなつておりましたそうな。

それから、ムジナのおまじないが効いたのか、近くの家にどろぼうが入つても、お大尽の家では一度も入られませんでした。



〔文・カット 杉並民話の会 参考 森泰樹著『杉並区歴史探訪』〕

松ノ木遺跡Ⅱ区内には北部に井草川・妙正寺川・中部に善福寺川・南部に神田川がそれぞれ蛇行しながら流れ、これらの河川流域には二〇〇ヶ所近い遺跡が点在しています。大宮八幡宮の鳥居前を下り、善福寺川にかかる宮下橋を渡ると、松の木遺跡の台地があります。先土器時代（約二万年前）・縄文・弥生・古墳の各時代の複合遺跡として区内最大で、たくさんの堅穴住居跡遺跡が発掘されました。明治以降の発掘調査で松の木遺跡全体で一五〇基以上の住居跡が埋蔵されていると推定されています。遺跡には古墳時代後期の典型的な堅穴住居が復元され、内部は当時の日常生活を想定し土器や食物などが置かれています。隣接の都立和田堀公園は、上流の善福寺川緑地公園とともに杉並の二大緑地帯として、各運動施設とともに区民の憩いの場となっています。

杉並区の歴史、教育委員会「すぎなみの散歩道」参考